日本NPOセンター

SOMPO 損保ジャパン

SAVE JAPAN プロジェクト

10年の足跡
2011-2020

みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境

Contents

SAVE JAPANプロジェクト10年の足跡を振り返って …… 3

SAVE JAPANプロジェクト10年の成果❶ …… 4
社会への広がりとつながりの構築

SAVE JAPANプロジェクト10年の成果❷ …… 6
保全活動に取り組んだ主な希少生物

■取り組み事例
［栃木県］特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク …… 8
［福井県］特定非営利活動法人さばえNPOサポート …… 9
［大分県］特定非営利活動法人おおいたNPOデザインセンター … 10

SAVE JAPANプロジェクトが市民社会にもたらしたもの …… 11

社会的価値の計測・可視化（SROI手法による分析） …… 12

SAVE JAPANプロジェクトと生物多様性に関する国内外の動き … 14

SAVE JAPANプロジェクトのしくみ …… 16

■資料-1　地域定着期（2016年度～2019年度） …… 17
プロジェクトに参加した
環境団体・参加者へのアンケート回答より

■資料-2　プロジェクトに参加した …… 18
運営支援団体・実施団体一覧

SAVE JAPAN
プロジェクト 2011-2020

SAVE JAPANプロジェクト10年の足跡を振り返って

損害保険ジャパン株式会社　取締役常務執行役員
CSuO（チーフ・サステナビリティ・オフィサー）
酒井 香世子

当社は、1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された「地球サミット」への参画を契機に国内金融機関で最も早く地球環境問題対応の専門部署を立ち上げて以来、長年にわたり環境問題の解決に向け積極的に取り組みを進めてまいりました。

複雑で解決が難しい環境問題の解決にあたり特に大切にしてきたことは、ステークホルダーの皆様との「協働」です。企業、NPO、市民などが持つ多様な強みを生かし、パートナーシップを大切にしながら、様々なプログラムを展開しています。

その一つが2011年にスタートした「SAVE JAPANプロジェクト」です。きっかけは当社の主力商品である自動車保険の約款のWeb化です。印刷費や郵送費などの削減コストを原資に、環境問題の解決に寄与することはできないかと考え、日本NPOセンター、各地のNPO支援組織、そして環境団体の皆様とともにプロジェクトを検討してまいりました。そして、全国に広がる当社の拠点ネットワークを生かしながら「いきものが住みやすい環境づくり」「環境保全活動に参加するきっかけづくり」を目的とした生物多様性保全プロジェクトを日本全国で展開することとなりました。

それからおよそ10年、本プロジェクトは約300の希少生物種の保全活動に約5万人の市民が参加する大規模な生物多様性保全活動へと発展してまいりました。事後アンケートでは、参加者のおよそ95%が地域の環境問題に関心を持つようになり、機会があれば今後も環境保全活動に参加したいと多くの方が回答するなど、具体的な行動の変容へとつながっています。加えてプロジェクトに参加いただいた環境団体の会員数や新規スタッフが増加し、基盤強化につながるなど、当初の目的を超えた副次的な社会的価値も生み出されてきています。

また、国内で初めて、社会的投資収益率（＝SROI）を用いた生物多様性保全分野における社会的価値の算出にもチャレンジしました。「SAVE JAPANプロジェクト」を通じて生みだされた社会的な価値とその価値を生みだすために要した費用を比較するSROIを算出し、事業の有効性の分析に役立てています。

さて、今年はいよいよ「ポスト愛知目標」が採択される予定であり、あらためて「生物多様性」に世の中の関心が集まっています。しかしながら、この10年で生物多様性の毀損はさらに進み、異常気象による災害の多発や新型コロナウイルスの感染拡大による影響等、母なる地球を取り巻く環境はますます厳しい状況です。当社としても、強い危機感を持ちつつ、引き続き多様なステークホルダーの皆様と協働しながら、環境問題の解決に向けて歩みを進めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、企画段階から伴走いただき「SAVE JAPANプロジェクト」をともに作り上げてきてくださった日本NPOセンターおよび各地域のNPO支援組織の皆様に、深く御礼申し上げます。

SAVE JAPANプロジェクト10年の成果❶

社会への広がりとつながりの構築

「SAVE JAPANプロジェクト」は、生物多様性の損失をとめるために、全国各地で地域住民が環境保全活動に参加するきっかけをつくる取り組みです。

全国に活動を広げ、多くの参加のきっかけづくりをめざした「全国展開期（2011年度～2015年度）」、地域内で環境保全のさらなる意識向上をめざした「地域定着期（2016年度～2019年度）」、参加者が保全活動に関心を持ち、新たに関わるための仕組みづくりをめざした「挑戦期（2020年度）」と、時代にあわせた見直しをはかりながら10年間実施してきました。

10年間の活動実績（2011-2020年）

イベント開催数
873回

保全対象の動植物種数
全国のべ **299種**
※詳細は6ページ参照

プロジェクトを実施した各地域の環境団体
のべ **357団体**

イベント参加者数
累計 **46,894人**

環境団体の運営をサポートした地域の運営支援団体（NPO支援組織）
のべ **266団体**

主な受賞歴

第8回エコプロダクツ大賞
エコサービス部門 エコプロダクツ大賞
推進協議会会長賞（優秀賞）（2011.11）

エコマークアワード2011
奨励賞（2012.2）

生物多様性アクション大賞2013
審査委員賞（2013.10）

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）
連携事業認定（2012.9）※民間事業で初の認定

平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰
審査委員会奨励賞（2016.2）

参加者・環境団体への影響

プロジェクトによるインパクト

※以下、%は「はい」と回答した比率
※2016-2019年の参加者、環境団体、運営支援団体へのアンケートより（詳細は、17ページ参照）

参加者

イベント参加により、環境問題や環境保全活動に関心を持った
95.3%

今後もまたこのようなイベントに参加したい
大人 **95.4%**
子ども **82.3%**

環境団体

プロジェクト以外の活動へも連携が広がった
48.7%

団体の新規スタッフが増加した（有給スタッフ・ボランティア）
37.1%

団体の会員が増加した
48.0%

団体イベントへの新規参加者が増えた
71.2%

損保ジャパンや代理店との連携が組織運営能力の向上に役立った
76.4%

企業

WEB約款率
2011年～2021年
59.5%▶91.9%

社会

メディア掲載2011年～2019年
新聞 **273回**
テレビ **41回**
その他メディア **32回**

SAVE JAPANプロジェクト10年の成果❷

保全活動に取り組んだ主な希少生物

［全国のべ299種］（同一エリア内で県をまたぐ重複種は、1種とカウント）

詳細はこちら

凡例：
- ■絶滅危惧ⅠA類　ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- □絶滅危惧ⅠB類　IA類ほどではないが、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

（注）各エリアの希少種の分類は、2021年11月現在の各県が発行するレッドデータブックに基づく。

中国エリア　30種

■オオサンショウウオ/両生類
■ツキノワグマ/哺乳類
■カワシンジュガイ/軟体動物
■カブトガニ/クモ類等
■ハマナス/顕花植物
■ムラサキセンブリ/顕花植物
■ユウスゲ/顕花植物
■ブッポウソウ/鳥類
■スイゲンゼニタナゴ/魚類
■ウスイロヒョウモンモドキ/昆虫類
■サクラソウ/顕花植物
他19種

関西エリア　30種

■ヨタカ/鳥類
■カワバタモロコ/魚類
■ネコギギ/魚類
■ゲンゴロウ/昆虫類
□コマドリ/鳥類
□オオタカ/鳥類
□オオサンショウウオ/両生類
□ヒメタイコウチ/昆虫類
□オケラ/顕花植物
□アユモドキ/魚類
□カスミサンショウウオ/両生類
他19種

九州・沖縄エリア　46種

■スナメリ/哺乳類
■ヤンバルクイナ/鳥類
■ベッコウトンボ/昆虫類
■シオマネキ/甲殻類
■カブトガニ/クモ類等
■カザグルマ/顕花植物
■ゴマシオホシクサ/顕花植物
□クロツラヘラサギ/鳥類
□タイワンツバメシジミ/昆虫類
□ハッチョウトンボ/昆虫類
□ヘビノボラズ/顕花植物
□ノスリ/鳥類
□アブラボテ/魚類
他33種

四国エリア　16種

■ヤナギアザミ/顕花植物
■ニッポンバラタナゴ/魚類
■モートンイトトンボ/昆虫類
■シオマネキ/甲殻類
■アサザ/顕花植物
□フジバカマ/顕花植物
他10種

信越・北陸エリア　33種

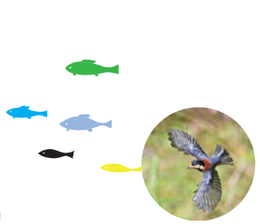
■オオタカ/鳥類
■クマタカ/鳥類
■コウノトリ/鳥類
■アベサンショウウオ/両生類
■ホクリクサンショウウオ/両生類
■イカリモンハンミョウ/昆虫類
■ウミミドリ/顕花植物
■ガガブタ/顕花植物
■ミズアオイ/顕花植物
□サシバ/鳥類
□イバラトミヨ/魚類
他22種

北海道エリア　12種

■シマフクロウ/鳥類
□チュウヒ/鳥類
□エゾホトケドジョウ/魚類
他9種

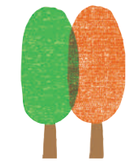
東北エリア　38種

■イヌワシ/鳥類
■クマゲラ/鳥類
■イチョウウキゴケ/コケ植物
■シナイモツゴ/魚類
■ゼニタナゴ/魚類
■ハマガニ/甲殻類
□コアジサシ/鳥類
□チュウヒ/鳥類
□タナゴ/魚類
□トチカガミ/顕花植物
他28種



中部エリア　28種

■カワバタモロコ/魚類
■マメナシ/顕花植物
■サギソウ/顕花植物
■ヒメコウホネ/顕花植物
□アカザ/魚類
□ホトケドジョウ/魚類
□ゲンゴロウ/昆虫類
□ナガボナツハゼ/顕花植物
□ヒトツバタゴ/顕花植物
他19種



関東エリア　66種

■クマタカ/鳥類
■トビハゼ/魚類
■オオキトンボ/昆虫類
■クロシジミ/昆虫類
■ゲンゴロウ/昆虫類
■ミヤマヒダリマキマイマイ/軟体動物
■カワラノギク/顕花植物
■ウスキクダチイ/地衣類
□オオワシ/鳥類
□キタミソウ/顕花植物
□チョウジソウ/顕花植物
□ビロードテンツキ/顕花植物
他54種

栃木県

全国展開期

2012年度から2014年度までに9回、生き物観察会などのイベントを実施しました。町外からの参加者が増えるのに伴い、町民の地元に対する意識も変わっていきました。イベントの当初から、「地域おこし」の視点を持っていた町長も参加しており、市貝町にある道の駅が「サシバの里」の拠点となりました。プロジェクト 3 年目の 2014 年には、「市貝町サシバの里づくり基本構想」が策定され、「サシバ」を地域全体で守っていく動きへと発展しました。「サシバの里」は、環境省の「生物多様性保全上重要里地里山」にも選定されました。

町も巻き込み、サシバの棲む里山を守る！

■実施年度

2012～2014年度（3年間）

■運営支援団体

特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク

■実施団体

見て、感じて、守ろう「サシバと里山の仲間たち」実行委員会
（事務局：オオタカ保護基金、とちぎボランティアネットワーク）

「SAVE JAPAN プロジェクト」で実施したイベント

2012年 6月10日	田んぼの生き物観察会＆ 里山保全活動	参加者18名
2012年 10月6日	秋の田んぼの生き物観察会＆ 里山保全活動（草刈り）	参加者20名
2012年 12月15日	コウノトリから学ぶ 「サシバの里づくり」シンポジウム	参加者56名
2013年 6月1日	田んぼの生き物観察会＆ 里山保全活動（田植え・草刈り）	参加者35名
2013年 10月12日	サシバを守ろう！ 秋の生き物観察会＆保全活動	参加者25名
2013年 12月15日	サシバを近くで見てみよう＆ シンポジウム	参加者66名
2014年 6月8日	サシバの里、田んぼの生き物 観察会＆保全運動	参加者18名
2014年 11月29日	クマタカを守ろう！塩原クマタカの 森で野鳥観察会＆森づくり	参加者25名
2015年 1月18日	サシバ、クマタカを近くで 見てみよう＆シンポジウム	参加者64名

実施団体の声

- 「SAVE JAPAN プロジェクト」のおかげで、年単位で計画的にプログラムを実施できます。やはり、これだけのプログラムをNPOの自主財源で行うことはなかなか難しいと思います。
- 回を重ねるごとに地元でも知られるようになったので、当日に地元の方が飛び入りで参加してくれるようになりました。地元の人の協力があってのイベントなので、受け入れが可能であれば参加してもらうようにしています。
- 意見交換会で参加者の意見を聞いた時に、思ったより地元の人たちが真剣に考え取り組もうとしていると感じられました。
- 始めた頃の2012年にはサシバの存在も薄いものでしたが、3年目には、オープンした道の駅に「サシバ」の名前が使われるなど、この地域での存在が大きくなってきたことを実感します。NPOなどの民間と行政がある程度一体感をもって取り組んだ結果ではないかと思います。

福井県

地域定着期・挑戦期

コロナ禍でも子どもたちとできる活動を模索！

■実施年度

2016～2020年度（5年間）

■運営支援団体

特定非営利活動法人さばえNPOサポート

■実施団体

一般社団法人環境文化研究所

2016年度から2019年度までは毎年3回ずつ、子どもたちが川や森でさまざまな生き物とふれあえるイベントを企画してきました。しかし、2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、現地に集まってのイベントが実施できなくなりました。多くの団体が活動中止を余儀なくされましたが、YouTube動画を通して在宅で実施できる活動の紹介やその報告を双方向で実施したり、カードゲームを制作するなどして活動を続けました。

「SAVE JAPAN プロジェクト」で実施したイベント

2017年 4月23日	トリの目、ムシの目、サカナの目	参加者31名
2017年 5月28日	トリの目、ムシの目、けものの目	参加者37名
2017年 7月23日	トリの目、ムシの目、自分の目	参加者42名
2018年 7月16日	自然体験「あすわ川・水と命の道」 ＃1	参加者41名
2018年 9月24日	自然体験「あすわ川・水と命の道」 ＃2	参加者29名
2018年 10月14日	自然体験「あすわ川・水と命の道」 ＃3	参加者11名
2019年 7月21日	2019夏・ぼくらの自然再生 プチ作戦＃1	参加者49名
2019年 8月18日	2019夏・ぼくらの自然再生 プチ作戦＃2	参加者45名
2019年 9月29日	2019夏・ぼくらの自然再生 プチ作戦＃3	参加者47名
2020年 5月～10月	目覚めよレンジャー！ ぼくらのランドスケープ大作戦	オンライン 動画9本
2020年 8月22日	ランドスケープ大作戦 生き物ネット相談室	オンライン 119回視聴
2021年 3月	ランドスケープ大作戦 カードゲーム	200セット 作成・配布

実施団体の声

- 共催したことで、これまでの自団体のイベント実施方法などの見直しの必要性を感じました。
- 運営スタッフや講師サイドのメンバーも、「手づくり魚道」のその後を気にかけて、雨の後に訪れて簡単な補修を行うなど、自主的にコミットする姿がありました。このあたりに、環境問題や希少生物への関心の継続と、多様な立場のひとりひとりが活動に参加していくヒントがあるように強く感じました。
- 行政系の補助金等とまた違って、「企画段階からの自由度の高い事業」への資金援助は、事業そのもののクオリティだけでなく、参加者、スタッフのモチベーションにも直結する、とても重要な仕組みだと思います。
- カードゲーム作成により、実体験ができにくい中でも生き物や生息地への興味や関心、知識を得られる仕組みを作ることができました。「参加者募集」形式のイベントとは違うパワーにつながる可能性があると思います。

大分県

全国展開期・地域定着期・挑戦期

瀬戸内海最大の中津干潟は、日本の各地で姿を消した生物たちが数多く生息しています。活動のシンボルでもあるカブトガニをはじめ、アカテガニ、ズグロカモメ、ベッコウトンボなどの生き物観察会を干潟や川、池で7年間継続して実施してきました。プロジェクトの伴走支援団体も当初から変わっていません。水辺に遊ぶ会の活動は、2020年に、これまでの活動が評価されて第26回日韓（韓日）国際環境賞にも選ばれました。

継続して実施することで知見が積み重なっていく！

■実施年度

2013～2020年度（8年間）

■運営支援団体

特定非営利活動法人おおいたNPOデザインセンター

■実施団体

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会

「SAVE JAPAN プロジェクト」で実施したイベント

2013年7月20日	中津干潟生き物観察会	参加者205名
2013年8月5日	アカテガニ産卵観察会	参加者38名
2013年12月8日	ズグロカモメ観察会	参加者26名
2014年7月26日	中津干潟生き物観察会	参加者123名
2014年8月3日	山国川おさかな観察会	参加者27名
2015年7月18日	中津干潟生き物観察会	参加者187名
2015年8月2日	山国川おさかな観察会	参加者72名
2015年11月28日	ベッコウトンボの生息地をみんなで守ろう	参加者19名
2017年5月3日	ベッコウトンボ観察会	参加者34名
2017年5月27日	中津干潟まつり「がたふぇす」	参加者96名
2017年7月22日	中津干潟生き物観察会	参加者120名
2018年5月3日	絶滅危惧種ベッコウトンボ観察会	参加者38名
2018年5月26日	がたふぇす	参加者44名
2018年7月21日	山国川いきもの観察会	参加者53名
2019年5月3日	ベッコウトンボ観察会	参加者30名
2019年8月17日	中津干潟子どもアカデミア	参加者144名
2019年12月1日	（プレイベント）ズグロカモメ観察会	参加者22名
2019年12月22日	（プレイベント）中津干潟アカデミア	参加者58名
2020年11月25日	中津干潟ねっと観察会	全3本の動画公開
2020年12月20日	中津干潟NETアカデミア	中津市・中津市教育委員会との共催

実施団体の声

- 寄付のおかげで、活動に関する冊子を作成して参加者に配布することができました。
- イベント実施にあたり各大学や地元の社会教育団体にお声がけしたところ、皆心よく協力してくれました。
- 干潟に関する学術的なストックが増え、生物保護への理解も広まりました。
- 自分たちの地域に誇れるものがあることで、地域活性化の一翼を担える可能性があると思います。
- 家族で参加できるメニューを考え実践できたことで、希少種の生き物がすむ環境を保全することの大切さを知っていただけました。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、主要な観察会ができないジレンマに陥りましたがその間、自分たちの過去から未来への活動の見直しなどができ、ホームページを基本とする情報発信に力を入れることができました。
- このプロジェクトのおかげもあり、中津干潟一帯を公的枠組みで保全する機運づくりができつつあります。今後も希少種の宝庫である中津干潟を見守っていただけるよう、よろしくお願い致します。

SAVE JAPANプロジェクトが市民社会にもたらしたもの

特定非営利活動法人日本NPOセンター　事務局長
吉田 建治

2011年に始まった「SAVE JAPANプロジェクト」は、10年を超える活動となりました。これだけの期間、このプロジェクトを継続してこられたのは、各地の環境NPO、NPO支援組織、損害保険ジャパン株式会社をはじめとして、このプロジェクトの趣旨を理解し、賛同し、関わってくださった多くの方々のおかげです。まずこの場を借りて、心から感謝を申し上げたいと思います。

「SAVE JAPANプロジェクト」は、全国の環境団体、NPO支援組織と損保ジャパン、日本NPOセンターが協働して、市民参加型の環境イベントを開催し、10年間で5万人近い参加者を得ることができました。「いきものが住みやすい環境づくり」という全国共通のテーマのもと、各地で活動する環境団体の、それぞれの得意と地域性を活かした個性豊かな取り組みが進められたところに特徴があります。

このプロジェクトでご一緒した環境団体の多くは、地域に根差して活動をしている小規模な団体です。こうした小規模な団体は往々にして事務局体制に課題を抱え、活動の継続に苦労をしているといわれます。しかし、本プロジェクトを通して、7割を超える団体がイベントへの新規参加者を増やし、半数近い団体が会員を増やし、1/3の団体が新規スタッフを増やしています。市民が参加しやすいプログラムづくりがすすめられたこと、イベントへの取材等、より多くの市民の目に触れる機会につながったこと、地域内のネットワークが広がったこと、全国の事例を共有する機会により活動への新たな視点が加わったことなど、組織の活性化や運営強化に貢献する結果が多く報告されました。

このように、「いきものが住みやすい環境づくり」を実現することとともに、身近な環境保全活動に関心を持ち、参加し、支える人たちの輪を広げたことは、本プロジェクトが生み出した、今後に残る大きな成果です。

そしてこうした成果は、本プロジェクトの協働を重視した枠組みによるものだと考えています。多くのステークホルダーが協働するという仕組みは、一朝一夕でできるものではありません。それぞれの組織の大きさや成り立ちが異なれば、意思決定プロセスも異なります。そうした違いを乗り越えるべく対話を重ね、環境団体のみなさまが新たな取り組みにチャレンジし、各地域のNPO支援組織のみなさまが「つなぐ」役割を担い、損保ジャパンのみなさまが支えてくださったからこそ実現したものです。

本プロジェクトは多くの方の参加が不可欠な生物多様性の保全において、協働で取り組むというモデルを示すことができました。これからもそれぞれの地域で協働での活動が発展し、豊かな環境が保たれることを願っています。

今後ともより一層のご協力、ご支援をお願いいたします。

■社会的価値の計測・可視化（SROI手法による分析）

SROI概要＆結果解説

SAVE JAPANプロジェクトでは、2011年度～2015年度（全国展開期）にプロジェクトの社会的価値を可視化するため、SROI（社会的投資収益率）手法を用いて、プロジェクトによって生じた変化を価値づけて算出しました。

めざす姿

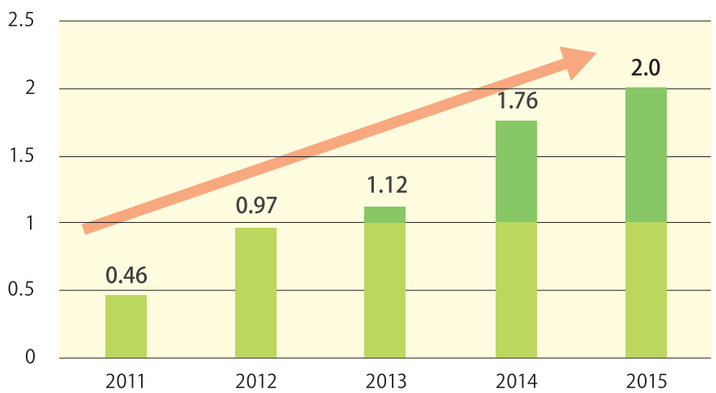
企業の本業CSRの取り組みを通じた地域のステークホルダーとの協働による日本の生物多様性保全

- 市民への環境保全活動の機会の提供（市民の環境意識向上）
- NPOの組織強化支援（組織運営能力向上）

効果測定（SROI分析）の目的

- 社会的価値、事業的価値を貨幣化（定量化）・可視化することにより「目指す姿」の実現度合を把握する。
- プロジェクトの継続的な改善に活用する。
- 第三者視点で客観的に効果を測定・把握する。

SROIの推移（社会的投資収益率）

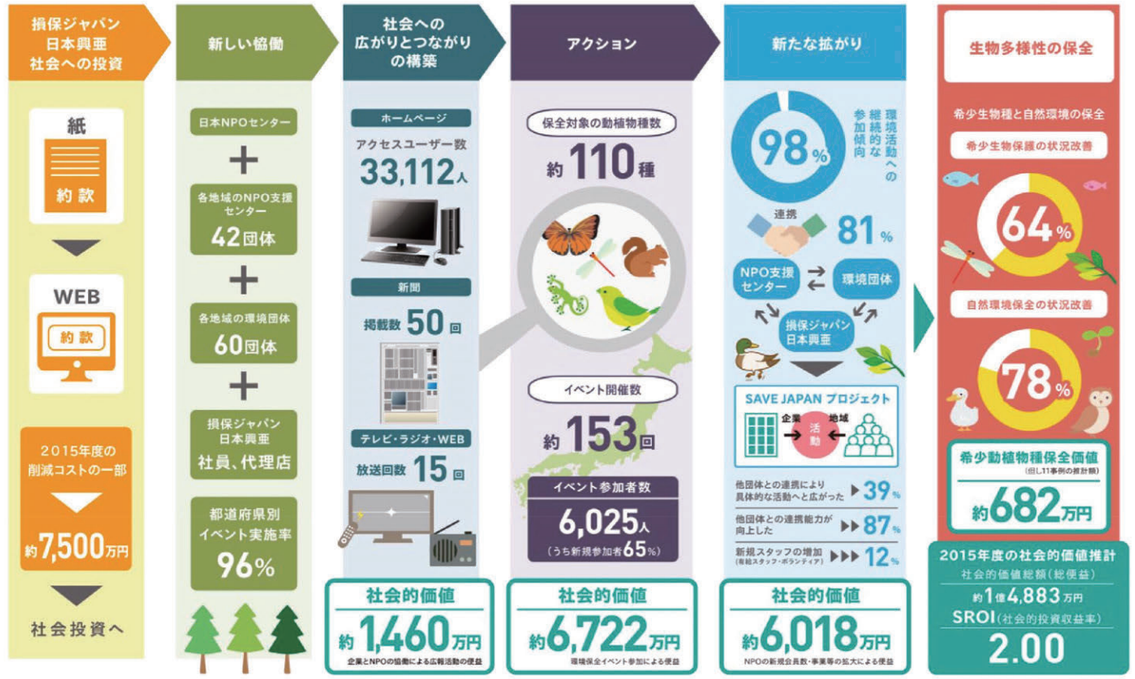


本プロジェクト開始から2年間は「初期投資」期間でもあり、費用が社会的・事業的価値を上回る状態でしたが、3年目からは「1.00」を超えて費用を上回る便益が生み出されると、その後も右肩上がりで増加し、5年目には「2.00」となり、本プロジェクトの有効性・効率性が数字でも実証される結果となりました。

SROI（社会的投資収益率：Social Return On Investment）とは

事業への投資価値を、より広い価値の概念に基づき、評価、検証するフレームワーク。従来のままでは貨幣価値として捉えにくかった社会的価値についても「代理指標」を用いて貨幣価値化することで、社会的価値を含めた形で事業のパフォーマンスを把握することができる。

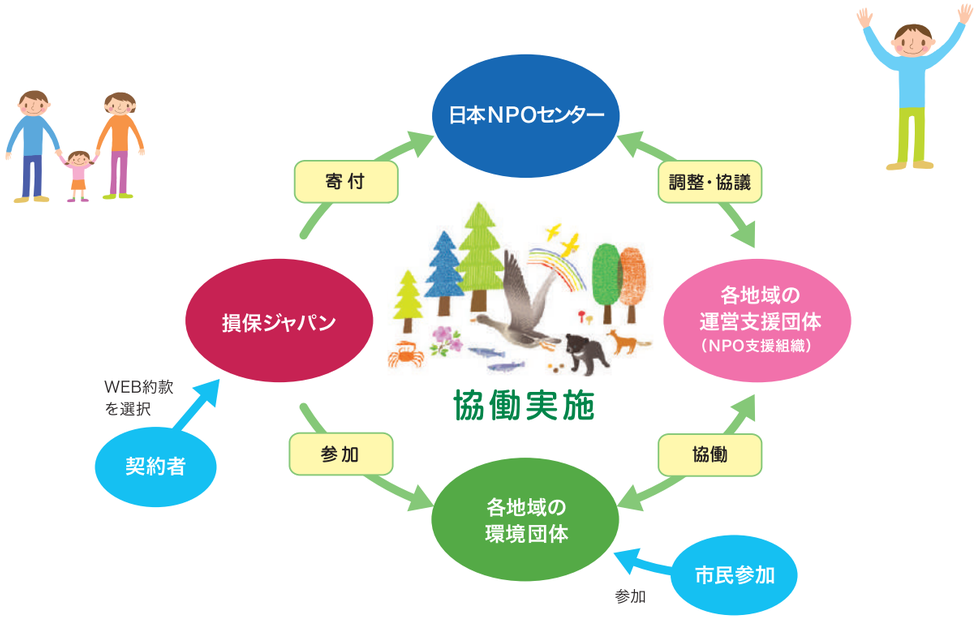
みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境（2015年度の社会的価値を推計）



■SAVE JAPANプロジェクトと生物多様性に関する国内外の動き

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016 ｜ 2017	2017 ｜ 2018	2018 ｜ 2019	2019	2020	2021
SAVE JAPANプロジェクト		**全国展開モデル**（2011年度）	**全国展開期**（2012年度～2015年度）				**地域定着期**（2016度～2019年度）				**挑戦期**（2020年度）	行動変容期（2021年度）
		（2096人参加） **34回のイベント開催** **12道府県**	（9011人参加） **153回のイベント開催** **47都道府県**	（6993人参加） **139回のイベント開催** **47都道府県**	（6857人参加） **149回のイベント開催** **47都道府県**	（6025人参加） **153回のイベント開催** **47都道府県**	（5663人参加） **97回のイベント開催** **35都道府県**	（5187人参加） **69回のイベント開催** **33都道府県**	（3560人参加） **65回のイベント開催** **29都道府県**		（1502人参加 ＊オンライン） **14回のイベント開催** ＊オンライン **8道県**	19都府県で開催
●日本での動き ●国際的な動き **生物多様性に関する動き**	●COP10「国連生物多様性の10年」（愛知目標）採択（10月） ●生物多様性国家戦略2010の策定（3月）	●小笠原諸島が世界自然遺産登録（6月） ●海洋生物多様性保全戦略の策定（3月） ●福島第一原子力発電所事故発生（3月）	●生物多様性条約第11回締約国会議（COP11）（10月） ●生物多様性国家戦略2012-2020の策定（9月） ●ニホンカワウソが絶滅種に指定（8月）	●ニホンウナギが絶滅危惧種に指定（2月）	●生物多様性条約第12回締約国会議（COP12）（10月）	●パリ協定採択（COP21）（12月） ●SDGs（持続可能な開発目標）（9月）	●「SDGs実施指針」の決定（12月） ●生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）（12月） ●パリ協定発効（11月） ●SDGsの実施のための我が国の指針の策定（5月） ●地球温暖化対策計画（5月）	●SDGsアクションプラン2018の公表（12月） ●ABS指針の施行（8月） （希少種保全動植物園等認定制度の創設）（2月） ●種の保存法一部改正	●生物多様性条約第14回締約国会議（COP14）（11月） ●環境省が「地域循環共生圏」を提唱（4月）	●「SDGs実施指針」の改定（12月） ●国連気候行動サミット開催（ニューヨーク）（9月） ●G20大阪サミット開催（6月）	●首相所信表明演説「脱炭素社会の実現」（10月） ●レジ袋有料化（7月） ●新型コロナウイルス感染症の拡大	●生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）（10月） ●奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産登録（7月）

■SAVE JAPANプロジェクトのしくみ



SAVE JAPAN プロジェクトのしくみ

損保ジャパンのお客さまにWeb約款（*1）をご選択いただくことにより寄付（*2）を行い、地域の環境団体や運営支援団体（NPO支援組織*3）、日本NPOセンターと協働で市民参加型の屋外イベントを開催します。地域みんなで参加できるイベントを目指しています。

（*1）Web約款とは、保険などの契約書を「紙」の印刷物ではなく、ホームページ上で閲覧できる仕組み。
（*2）損保ジャパンの自動車保険等のお客さまに、ご契約時、「Web証券」や「Web約款」を選択いただいた場合や自動車事故の修理時にリサイクル部品などを活用いただくことにより、SAVE JAPANプロジェクトの活動へ寄付を行います。
（*3）NPO支援組織とは、NPOの分野を特定せず地域のNPOの支援を行う組織です。

誕生の背景と目的

2010年10月に愛知県名古屋市で「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催されました。そこで採択された「愛知目標」は、2020年までに生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動を実施することと20の個別目標の達成を目指しています。

その課題に取り組むため、2011年から、各地域の環境団体、運営支援団体、日本NPOセンター、損保ジャパンの4者が協働で、地域の皆さまと一緒に、全国各地で「いきものが住みやすい環境づくり」を行う「SAVE JAPANプロジェクト」をスタートしました。

このプロジェクトの一番の目的は、地域住民の皆さんが環境保全活動に参加するきっかけを提供することで、環境問題への関心が高いコミュニティづくりに貢献することです。また、多様なステークホルダー、NPOとの「連携」「協働」が促進されることで、企業、地域住民が互いに学びあい、地域の環境問題の解決のための行動が増加する好循環が創出され、「いきものが住みやすい環境づくり」につながっていくことにも寄与したいと考えています。

資料-1　地域定着期（2016年度～2019年度）プロジェクトに参加した環境団体・参加者へのアンケート回答より

	アンケート項目	2016-2017	2017-2018	2018-2019	
参加者への影響 ※参加者へのアンケート	このイベントに参加し、環境問題や環境保全活動に関心が持てましたか	94.6%	94.5%	96.9%	↗
	今後もまたこのようなイベントに参加したいですか	大人 94.9%	大人 93.7%	大人 97.5%	↗
		子ども 80.0%	子ども 79.9%	子ども 86.9%	↗
環境団体への影響 ※環境団体へのアンケート	SAVE JAPANプロジェクトに参加したことが、能力向上等に役立ちましたか	96.0%	96.0%	100.0%	↗
組織運営能力の向上	具体的な項目について「向上した」「顕著に向上した」と回答した割合	他団体との連携能力の向上 76.0%	他団体との連携能力の向上 60.0%	他団体との連携能力の向上 79.2%	↗
		プログラムマネジメント力の向上 52.0%	プログラムマネジメント力の向上 44.0%	プログラムマネジメント力の向上 66.7%	↗
環境団体への影響 ※環境団体へのアンケート	他団体との連携によりプロジェクト以外の活動へも連携が広がった	44.0%	52.0%	50.0%	↗
新たな広がり	プロジェクトへの参加により団体の新規スタッフが増加した（有給スタッフ・ボランティア）	43.5%	22.7%	45.0%	↗
	プロジェクトへの参加により、団体の会員が増加した	46.2%	36.4%	61.5%	↗
	プロジェクトへの参加により、イベントへの新規参加者が増えた	74.0%	68.0%	71.6%	→
	損保ジャパンや代理店と連携できたことが組織の能力向上に役立った	60.0%	87.5%	81.8%	↗

※%は設問に「はい」と回答した比率

資料-2　プロジェクトに参加した運営支援団体・実施団体一覧

	都道府県	2020	2018-2019	2017-2018	2016-2017	2015	2014	2013	2012	2011
		挑戦期	地域定着期	地域定着期	地域定着期	全国展開期	全国展開期	全国展開期	全国展開期	全国展開モデル
北海道・東北	北海道	北海道NPOサポートセンター							JNPOC	
		石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク			宮島沼の会	ふらっと南幌	カラカネイトンボを守る会		霧多布湿原ナショナルトラスト	
	青森県	あおもりNPOサポートセンター							青森県EPOセンター	JEEF
		青森田中学園ビオトーププロジェクト		つがる野自然学校		岩木山自然学校	ういむい未来の里		青森県ふるさとづくりプラットフォーム機構	武田堤防保護組合 青森大学自然学校
	岩手県					いわてNPOフォーラム21		JNPOC	風・波デザイン	
						紫波みらい研究所		環境マイスター紫波		
	宮城県				杜の伝言板ゆるる					
					田んぼ	名取ハマボウフウの会	蒲生を守る会		シナイモツゴ郷の会	
	秋田県		あきたパートナーシップ							
			あきた白神の森倶楽部			はちろうプロジェクト	あきた地球資源ネットワーク	秋田県自然観察指導員連絡協議会	冒険の鍵クーン	
	山形県		山形の公益活動を応援する会・アミル							
			遊学の森案内人会	イヌワシの森倶楽部	やまがたヤマネ研究会			美しいやまがた森林活動支援センター		
	福島県		うつくしまNPOネットワーク							
			江湖村		なんだべ村自然楽校	南相馬サイエンス・ラボ	おーでらす			
関東	茨城県					茨城NPOセンター・コモンズ				
						環／金田台の生態系を守る会		里山を守る会／森の自然学校助川保全くらぶ	東海村の文化財と自然を守る会	逆川を愛する会
	栃木県		とちぎボランティアネットワーク							
			オオタカ保護基金		真岡自然観察会		サシバと里山の仲間たち実行委員会			
	群馬県		桐生市民活動支援センター／群馬NPO協議会		群馬NPO協議会					
			鳴神の自然を守る会／小平サクラソウの会		鳴神の自然を守る会	前橋環境保全基地	赤木自然塾			
	埼玉県		さいたまNPOセンター							
			元荒川をきれいにする会	エコネットくぬぎ山／北中ネイチャークラブ	鴻巣こうのとりを育む会／鴻巣の環境を考える会	エコ、エコ	エコシティ志木	エコネットとみおか	綾瀬川を愛する会	
	千葉県		ちば市民活動・市民事業サポートクラブ							
			一宮ウミガメを見守る会		亀成川を愛する会	ほたるを守るNORAの会	富里のホタル	都川の環境を考える会	四街道自然同好会	
	東京都		JEEF			JEEF				
			荒川クリーンエイド・フォーラム			城山トコロジストの会	荒川クリーンエイド・フォーラム		リトルターン・プロジェクト／荒川クリーンエイド・フォーラム	
	神奈川県		藤沢市民活動推進機構			藤沢市市民活動推進協議会				
			ゆい			めだかサポーターの会／NPO市民活動を支える会	はす池の自然を愛する会	カワラノギクを守る会／さがみはら市民会議	ゆい	
信越・北陸	新潟県		くびき野NPOサポートセンター							
			新潟ワイルドライフリサーチ		生物多様性保全ネットワーク新潟	雪国自然学校	五泉トゲソの会	生物多様性保全ネットワーク新潟		
	富山県		市民活動サポートセンターとやま			環境教育ネットワークとやまエコひろば		バンブー・セイブ・ジ・アース	市民活動サポートセンターとやま	
			富山県シェリングネイチャー協会	ねいの里　自然塾の会		市民いきものメイト		環境教育ネットワークとやまエコひろば	とやまエコひろば	
	石川県		こまつNPOセンター					いしかわ市民活動ネットワーキングセンター	JEEF	
		39アース	木場潟再生プロジェクト	生態系トラスト協会石川			こまつ環境パートナーシップ	金沢みどりの調査会	いしかわ自然学校	
	福井県		さばえNPOサポート							
			環境文化研究所			水辺と生き物を守る農家と市民の会	河和田自然に親しむ会	日川流域交流会（環境文化研究所）	越前市エコビレッジ交流センター	
	長野県		長野県NPOセンター							
			ecology&eco-lives信州				北信濃の里山を保全活用する会			
中部	山梨県		JEEF							
			自然とオオムラサキに親しむ会					キープ協会		
	岐阜県					ぎふNPOセンター				
						森のなりわい研究所／山菜の里いび／大洞の里山つくろう会	大洞の里山つくろう会／石徹白地区地域づくり協議会／山菜の里いび	達目洞自然の会／石徹白地区地域づくり協議会		
	静岡県		浜松NPOネットワークセンター							
			昆虫食倶楽部	浜松市東区の自然と文化を残そう会	昆虫食倶楽部	ひずるしい鎮玉／ミュミュ・ワークショップ	縄文楽校／里の楽校	浜松水辺を愛する会／里の楽校	椎ノ木谷保全の会	
	愛知県					パートナーシップ・サポートセンター				愛・地球博ボランティアセンター
						森林インストラクター会“愛”／都市の自然のモノサシ研究会	都市の自然のモノサシ研究会	森林インストラクター会“愛”／都市の自然のモノサシ研究会	なごや東山森づくりの会／なごや外来種を考える会	表浜ネットワーク

■JEEF：日本環境教育フォーラム　■JNPOC：日本NPOセンター

	都道府県	2020	2018-2019	2017-2018	2016-2017	2015	2014	2013	2012	2011
		挑戦期	地域定着期	地域定着期	地域定着期	全国展開期	全国展開期	全国展開期	全国展開期	全国展開モデル
関西	三重県		市民ネットワークすずかのぶどう		みえNPOネットワークセンター		JEEF			
			やすらぎくんネット			赤目の里山を育てる会	大杉谷自然学校			
	滋賀県					しがNPOセンター				
						田村山生き物ネットワーク／巨木と水源の郷をまもる会	伊庭内湖の自然を守る会／富之郷里山クラブ	みなくち子どもの森自然友の会／近江・オオムラサキを守る会	里山保全活動団体遊林会／山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会／ぼでじゃこトラスト	
	京都府				おりなす. キャンプ. 城陽			きょうとNPOセンター		
					城陽生き物調査隊		やましろ里山の会	亀岡人と自然のネットワーク／京都大原里づくり協会	亀岡人と自然のネットワーク	
	大阪府				大阪ボランティア協会					
					大坂自然史センター／Co.to.ha.na／靭公園自然探究会	すいた市民環境会議／ニッポンパラタナゴ高安研究会	鵜殿ヨシ原研究所／すいた市民環境会議／箕面ホタルを守る会	鵜殿ヨシ原研究所		大和川釣り人クラブ／西淀自然文化協会／箕面の山パトロール隊
	兵庫県			大阪ボランティア協会		市民活動センター神戸				
				森の都研究所		日本ハンザキ研究所		ソーシャルデザインセンター淡路	寺田池協議会／兵庫間伐サポートサービス	兵庫間伐サポートサービス
	奈良県		奈良NPOセンター							
			春日山原始林を未来へつなぐ会		赤膚ネイチャークラブ／春日山原始林を未来へつなぐ会	奈良ストップ温暖化の会			生駒高山の宝ものをさがそう会／奈良・自然への感動を伝える会「ならなぎ」／里山の山野草を守る会	
	和歌山県		わかやまNPOセンター							
			南海せとうちジオガーデン	人と自然とまちづくりと	海辺の教室			はしもと里山保全アクションチーム	ビオトープ	
中国	鳥取県			とっとり県民活動活性化センター			JEEF			
				大山・オオサンショウウオの会			とっとり・なんぶ手自然ネットワーク「サトノテ」			
	島根県	JEEF								
		もりふれ倶楽部					大田の自然を守る会			
	岡山県		岡山NPOセンター							瀬戸内オリーブ基金
			高梁川流域学校				高梁川コモンズ自然学校設立準備委員会	岡山野生生物調査会		岡山野生生物調査会／中学高校環境研究会
	広島県			ひろしまNPOセンター						
				もりメイト倶楽部Hiroshima		永田川カエル倶楽部／京橋川かいわいあしがるクラブ	西中国山地自然史研究会			
	山口県		やまぐち県民ネット21					やまぐち県民ネット21		
			山陽小野田市自然保護協議会					アサギマダラ保護活動実行委員会	錦川オオサンショウウオの会	
四国	徳島県					市民みらい共社				
						とくしま自然観察の会／川塾			大川源／徳島県立佐那河内いきものふれあいの里	
	香川県					JEEF			JNPOC	瀬戸内オリーブ基金
						どんぐりネットワーク			瀬戸内オリーブ基金	海守さぬき会
	愛媛県					えひめリソースセンター		えひめNPOセンター		
						西条自然学校		かわうそ復活プロジェクト		
	高知県		NPO高知市民会議							
		環境の杜こうち	農と生きもの研究所			アサギマダラの里in秋葉山／トンボと自然を考える会	仁淀川お宝探偵団／トンボと自然を考える会	仁淀川お宝探偵団／昆虫の森をつくろう会	トンボと自然を考える会／仁淀川お宝探偵団	
九州・沖縄	福岡県		ふくおかNPOセンター							
			まほろば自然学校			まほろば自然学校／グリーンシティ福岡	まほろば自然学校		和白干潟を守る会／豊の国海幸山幸ネット／元岡「市民の手による生物調査」	
	佐賀県					JEEF	JNPOC			
						みんなの森プロジェクト	有明海ぐるりんネット	温暖化防止ネット		
	長崎県			JEEF						
				ながさきホタルの会		環境カウンセリング協会長崎	とりかぶと自然学校			
	熊本県				エヌピーオーくまもと					
					水と緑のワーキンググループ					
	大分県		おおいたNPOデザインセンター						JEEF	
			水辺に遊ぶ会			水辺に遊ぶ会／猪の瀬戸湿原保全の会	水辺に遊ぶ会	水辺に遊ぶ会／碧い海の会	トキの夢営農組合	
	宮崎県			NPOみやざき						
				高鍋町観光協会		和石地区田園の景観を守る会	宮崎ライフセービングクラブ	宮崎青少年育成キャンプ実行委員会	緑の里山を守る会	
	鹿児島県	鹿児島県NPO事業協会								
		もりはやし倶楽部				くすの木自然館	桜島ミュージアム			
	沖縄県					調査隊おきなわ				
						恩納村エコツーリズム研究会	うるま市水と緑を考える会／恩納村エコツーリズム研究会		うるま市水と緑を考える会／なはエコネットワーク	

SDGsを加速化するSAVE JAPAN プロジェクト

貧困のない、誰もが生きやすい持続可能な社会を次世代に受け継いでいくことを目指した目標であるSDGs（エス・ディー・ジーズ＝Sustainable Development Goals）。2030年に向けて世界が合意した目標です。SAVE JAPANプロジェクトは、「誰一人取り残さない（Leave No One Behind）」というSDGsの理念に共感。各地域固有のいきものや植物、希少生物種の保全を軸に「体験×参加×パートナーシップ」の手法で、国内の各地域からSDGsの17ゴールに影響を与えています。

このプロジェクトは「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定を受けています。

認定特定非営利活動法人
日本NPOセンター

〒100-0004
東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル245
TEL 03-3510-0855
FAX 03-3510-0856
Website www.jnpoc.ne.jp
E-mail savejapan@jnpoc.ne.jp

地域貢献プロジェクト SAVE JAPAN プロジェクトは「地域貢献プロジェクト」の一環として実施しています。

2022.4